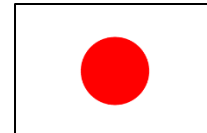


グローバル環境の変化へのASEANの対応と 日本にとっての機会 ～地経済学的リスクをビジネスに生かす～

ジャカルタジャパンクラブ（JJC） 商社グループ主催セミナー

2025年11月6日

ASEAN日本政府代表部大使 紀谷 昌彦



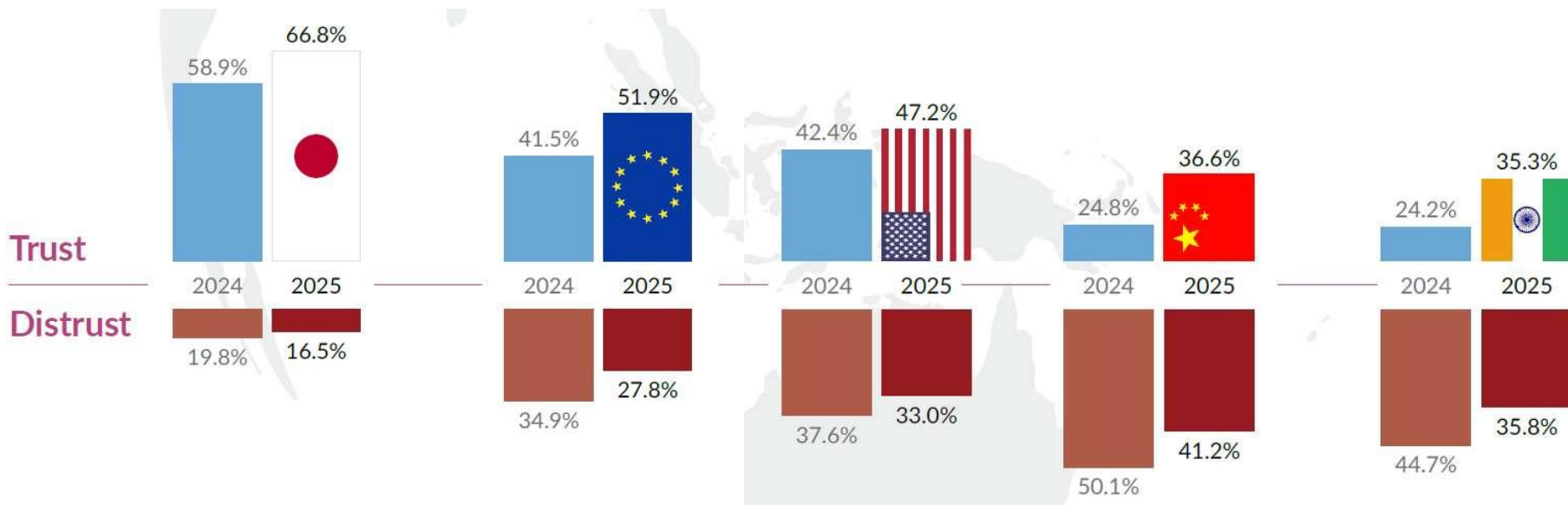
ASEAN意識調査「東南アジアの現状2025年」

日本の信頼度が主要国中第1位

シンガポールのシンクタンクISEASユソフ・イシャク研究所ASEAN研究センターが2019年から毎年実施するASEAN10カ国（今年度から東ティモールも追加）の研究
者、ビジネス関係者、市民社会・メディア関係者、各国政府・国際機関関係者約
2,000人を対象に実施された意識調査2025年度版を4月に発表。

日本は、**信頼 (Trust)** が不信 (Distrust) を大きく上回って**主要国中第1位**。

日本の**国際法を尊重し遵守する**責任ある姿勢が高く評価された。



お伝えしたいこと

1. ASEANの最新情勢
2. ASEANと日本の歴史
3. ASEANと日本の将来

1. ASEANの最新情勢

2025年ASEAN関連首脳会議

議長国：マレーシア

テーマ：包摂性と持続可能性

(Inclusivity and Sustainability)

10月26日～28日、於クアラルンプール



マレーシア議長国
ロゴ

マレーシア議長国 3つの柱

(1) ASEAN中心性の強化

- 持続的な対話、外交、親善を通じた、国家間の戦略的信頼を促進。
- 国境を越えた経済的パートナーシップの拡大。

(2) ASEAN域内貿易・投資の強化

- 科学、技術、イノベーション、デジタルトランスフォーメーションと新技術の活用。

(3) 地域共同体構築の努力の中心としての包摂性と持続可能性

- 開発格差の縮小、生活水準の向上及び気候変動の影響の緩和。



高市総理が日ASEAN首脳会議、AZEC首脳会議、
茂木外務大臣がASEAN + 3 首脳会議、東アジア
首脳会議（EAS）、RCEP首脳会議に参加。

～主要な成果と注目点～

- ◆東ティモールのASEAN正式加盟
- ◆カンボジアとタイの和平合意署名
- ◆トランプ米大統領をはじめ主要国首脳の参加
- ◆中ASEAN自由貿易協定の改定（ACFTA 3.0）
- ◆ASEAN物品貿易協定（ATIGA）議定書の改定
- ◆地域的な包括的経済連携（RCEP）首脳会議の開催
- ◆外務大臣・経済大臣合同会合の開催（地経学タスクフォース提言）
- ◆デジタル経済枠組み協定（DEFA）の実質妥結の歓迎

世界経済の不確実性へのASEANの対応

1. ASEAN経済大臣会合（AEM）プロセス

- ◆ 4月10日、ASEAN特別経済大臣会合オンライン開催・共同声明を発出。
→ASEANとして①一方的・報復的措置は取らず、対話を通じて建設的な解決を目指すとの共同歩調を取るとともに、②WTOを中心とするルールに基づく多国的貿易体制の下、③域内貿易・投資の深化、域外との経済関係強化に取り組むと発信。
- ◆ 経済情勢の不透明性が増している現状を踏まえ、パートナー国との経済連携を強化するため、ASEAN経済大臣は日本・豪NZ・中国の各々の経済大臣とオンライン会合を開催。（日ASEAN特別経済大臣会合は5月20日）

2. ASEAN首脳会議（5月26日）

- ◆ ASEAN首脳会議の首脳リトリートで本問題を議論し、「グローバルな経済・貿易の不確実性への対応に関するASEAN首脳声明」を採択。AEMのラインを維持。5月半ばに立ち上げられたASEAN地経学タスクフォースの活用にも言及。

外務大臣・経済大臣合同会議（10月25日）

- ・ WTO を中核とした、予測可能で透明性があり、包括的、自由、公正、持続可能な、ルールに基づく多角的貿易体制への支持を再確認。
- ・ ASEAN地経学タスクフォースからの提言に感謝。
→3つのアプローチ
①国際貿易政策の不確実性による当面の影響に対処
②地域の強靱性を強化
③グローバルガバナンスを形成し、ASEAN機関を強化
- ・ ASEANの政治安全保障分野と経済分野の連携強化に言及。

第5回RCEP首脳会議（10月27日）

※RCEPが署名された2022年（テレビ会議）以来、初めての開催。

ASEAN GEOECONOMICS REPORT 2025

This Time It Is Different:
ASEAN's Agency in Shaping
The New Global Agenda



An Integrative Report by
the ASEAN Geo-economics Task Force



リュウ・チントン 馬投資貿易産業省副大臣ウェブサイトより

参考：ASEAN本年の動向（2025年5月）

ASEAN首脳会議（5月26日）

- ◆ **ASEAN共同体ビジョン2045**：4つの戦略計画（政治安全保障・経済・社会文化・連結性）とともに採択
- ◆ **東ティモール**：10月のASEAN首脳会議での**正式加盟を決定**
- ◆ **ミャンマー問題**：「ミャンマーの停戦の延長と拡大に関するASEAN首脳声明」を採択
- ◆ **米国の関税政策への対応**：「グローバルな経済・貿易の不確実性への対応に関するASEAN首脳声明」を採択

ASEAN関連首脳会議（5月27日）

- ASEAN・GCC（湾岸協力会議）首脳会議
→経済協力に関する首脳共同宣言を採択
- ASEAN・GCC（湾岸協力会議）・中国首脳会議
→首脳共同声明を採択

2. ASEANと日本の歴史



ASEANの特性

- ◆ ASEANは、国の規模、政治体制、社会文化、言語、宗教等が異なる多様性豊かな地域。
- ◆ EU等に比して緩やかな枠組み。互いを尊重し、多様性を認め、コンセンサスを重視。「ASEAN WAY」。
- ◆ ASEANは、様々な地域協力の枠組み（EAS、ARF等）を主導、地域の平和と安定に貢献。2015年には、念願のASEAN共同体が実現。地域協力の成功例に。
- ◆ **ASAENの中心性と一体性**
 - ✓ 中心性：地域の枠組みにおける議論を、ASEANが域外国を巻き込む形で主導していくことを意味する概念。
 - ✓ 一体性：ASEAN加盟国が結束して対外関係に当たることを意味する概念。

ASEANの拡大と深化

- 1967年 **バンコク宣言**で設立（インドネシア・マレーシア・フィリピン・タイ・シンガポールの5カ国、**ASEAN5**）
- 1976年 第1回**ASEAN首脳会議**開催（バリ）、**東南アジア友好協力条約（TAC）**、**ASEAN協和宣言**、**ASEAN事務局設立協定**の採択
- 1984年 ブルネイ加盟
- 1992年 **ASEAN自由貿易地域（AFTA）** 創設
- 1995年以降 ベトナム（1995年）、ラオス・ミャンマー（1997年）、カンボジア（1999年）が加盟（ASEANが10カ国に、**ASEAN10**）
- 2007年 **ASEAN憲章**調印、2008年発効
- 2012年 **RCEP**交渉立ち上げ、2020年署名、2022年発効
- 2015年 **ASEAN共同体**発足、**ASEAN共同体ビジョン2025（10年先まで）** 採択
- 2017年 ASEAN設立50周年
- 2019年 **インド太平洋に関するASEANアウトルック（AOIP）** 採択
- 2025年 **ASEAN共同体ビジョン2045（20年先まで）** 採択
東ティモールが正式加盟（ASEANが11カ国に。2011年加盟申請、2022年原則加盟。）

ASEANの重層的地域協力

1978年 ASEAN拡大外相会議 (ASEAN・PMC)

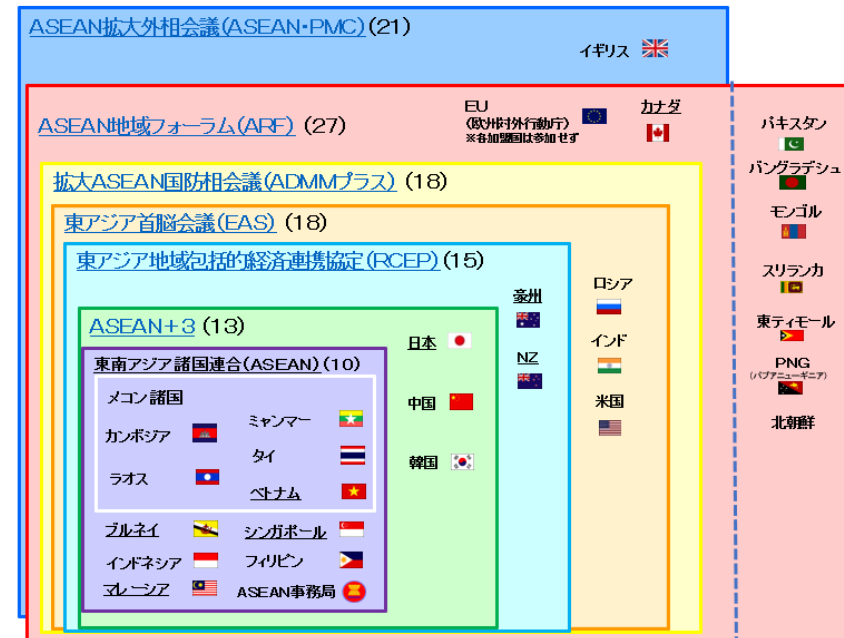
1994年 ASEAN地域フォーラム (ARF)

1997年 ASEAN + 3首脳会議 (APT)

2005年 東アジア首脳会議 (EAS)

→2011年以降 米・露が参加

2010年 拡大ASEAN国防大臣会議
(ADMM+) 初開催



※ASEAN主導の枠組み

いずれもASEAN議長国で開催

※1989年からAPEC閣僚会議、1993年からAPEC首脳会議開催
(ASEANのうちカンボジア・ラオス・ミャンマーは未加盟)

注1: O内は参加している国・地域・機関の旗

注2: 下線は環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(TPP11)参加国(その他の参加国はパキスタン、ベトナム、チリ)



ASEAN共同体

- ASEAN（東南アジア諸国連合）は、1997年以来共同体に向けた取組みを進め、2015年末に「政治・安全保障共同体」、「経済共同体」、「社会・文化共同体」から成る「**ASEAN共同体**」を構築。
- 2016年以降も共同体の強化、統合の深化を推進。その指針となる「ASEAN共同体ビジョン2045」及び4つ戦略計画が、2025年5月のASEAN首脳会議で採択された。
- 共同体の意思決定は、**コンセンサスによる**。E Uのように国家主権の一部委譲、通貨統合、共通の外交・安全保障・防衛政策実施を目指すものではない。

（ASEAN共同体構築の経緯）

1997年： 2020年までに「ASEAN共同体」を目指すとのビジョンを提示（「ASEANビジョン2020」）。

2003年： ASEAN共同体を「安全保障共同体（ASC）」、「経済共同体（AEC）」及び「社会・文化共同体（ASCC）」の3つの柱により構築することで合意（「バリ・コンコードII」）。（ASCは、後に「政治・安全保障共同体（APSC）」に改称。）

2007年： ASEAN共同体構築の目標を5年間前倒しし、2015年とすることで合意（「セブ宣言」）。

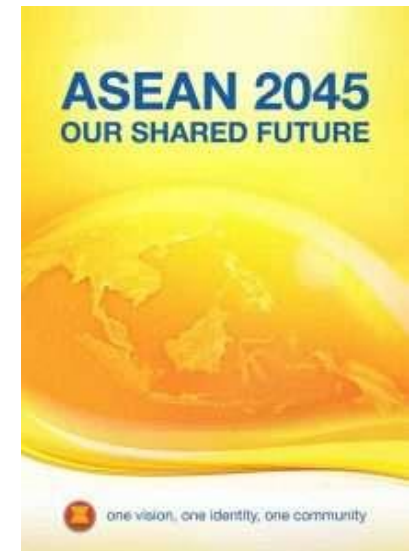
2009年： 3つの共同体のブループリントから成る「ASEAN共同体ロードマップ（2009～2015）」を採択。

2015年： 「ASEAN共同体構築に関する2015クアラルンプール宣言」並びに「ASEAN共同体ビジョン2025」及び3つの共同体の後継ブループリント（2016-25）を採択。

2025年： 「ASEAN2045クアラルンプール宣言：我々の共有する未来」並びに「ASEAN共同体ビジョン2045」及び4つの戦略計画（政治安全保障、経済、社会文化、連結性）を採択。

「ASEAN2045: 我々が共有する未来」の採択

- 今後20年の方向性を示す指針として、ASEAN首脳会議で採択。
- 構成（6文書・計155頁）
 - ASEAN 2045:我々が共有する未来に関するクアラルンプール宣言
 - ASEAN共同体ビジョン2045ー強靱、革新的、ダイナミック、そして人間中心のASEAN
 - 4つの戦略計画（各分野の詳細な最新の戦略目標・施策）
 - ①政治・安全保障共同体
 - ②経済共同体2026-2030
 - ③社会・文化共同体
 - ④連結性



日本にとってのASEANの重要性

- 戦略的要衝

海洋国家の日本にとって戦略的に重要なシーレーンの要衝。
自由で開かれたインド太平洋（FOIP）実現の要。

（ASEANは、インド太平洋に関するASEANアウトルック（AOIP）を2019年に発表。）

- 成長する経済

日本企業の製造拠点。約6.8億人の人口を抱える成長する消費市場としても有望（世界の成長センター）。

エネルギー・脱炭素、デジタル等の新課題への挑戦の場。

- 重層的な地域協力の中心

ASEAN主導の地域協力枠組みが重層的に発展。

首脳会合や分野別大臣会合が定期化・制度化。

日本とASEAN ～これまでの経緯～

写真で振り返る日ASEAN50年の歴史



1967
バンコク宣言によるASEAN設立



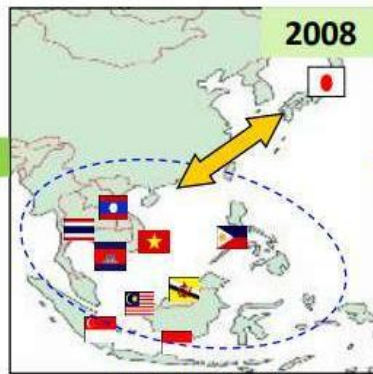
1973
日ASEANの対話開始（合成ゴムフォーラム）



1977
「福田ドクトリン」の表明



1981
日本アセアンセンター設立



2008
AJCEP協定発効



2007
JENESYS事業開始



2006
JAIF設置



2003
日ASEAN特別首脳会議（30周年）
「東京宣言」



2011
ASEAN日本政府代表部開設



2013
日ASEAN特別首脳会議（40周年）
日ASEAN友好協力ビジョンステートメント・実施計画



2020
AOIP協力についての
日ASEAN首脳共同声明



2023
日ASEAN特別首脳会議
（50周年）

反日デモ：マラリ（1月15日の災難）事件

1974年1月15日、田中角栄首相（当時）が来尼した際、ジャカルタで反日暴動が発生。対日赤字の増大による国民の生活苦や、スハルト政権下での日系企業のビジネス拡大に対して学生運動家らが中心となり、大規模なデモを起こした。

1万人のデモ隊が暴徒化し、日本大使館の国旗が引きずり降ろされ、死者11名、重傷者17名、燃やされ破壊された車両807台・バイク187台、損傷建築物114棟、逮捕者770名の犠牲・損害があった。



福田ドクトリン

第一に、わが国は、**平和に徹し軍事大国にならない**ことを決意しており、そのような立場から、東南アジアひいては世界の平和と繁栄に貢献する。

第二に、わが国は、東南アジアの国々との間に、政治、経済のみならず**社会、文化等、広範な分野**において、真の友人として**心と心のふれ合う相互信頼関係**を築き上げる。

第三に、わが国は、「**対等な協力者**」の立場に立って、ASEAN及びその加盟国の**連帯と強靱性強化の自主的努力**に対し、志を同じくする他の域外諸国とともに**積極的に協力**し、また、インドシナ諸国との間には相互理解に基づく関係の醸成をはかり、もって**東南アジア全域にわたる平和と繁栄の構築**に寄与する。



福田総理のマニラ演説（1977年8月18日）（出典：内閣広報室）

1. 特別首脳会議（2023年12月17日、東京）

●日ASEAN友好協力に関する共同ビジョン・ステートメントの採択

－副題：信頼のパートナー（Trusted Partners）

（インド太平洋に関するASEANアウトルックと、日本の自由で開かれたインド太平洋構想とが本質的原則を共有することを認識。すべての人間が生れながらにして自由であり、尊厳と権利とについて平等であることを確認。）

我々のビジョンは、共有された価値や原則が確保され、全ての国が平和及び繁栄を追求でき、民主主義、法の支配、良い統治並びに人権及び基本的自由の尊重の原則が守られる世界を目指すこと。我々は、相互信頼に基づき、ASEAN一体性と中心性を支持しつつ、次の3つの柱の下で、互恵的な包括的戦略的パートナーシップを強化する。

①世代を超えた心と心のパートナー

日ASEANパートナーシップの基盤である、相互信頼、相互理解、相互尊重の「心と心」の関係をさらに育むことにコミット。
若者や人的交流、知的交流の強化。

②未来の経済・社会を共創するパートナー

多様、包摂的、強靱、自由、公正、豊かで持続可能な経済社会を共創。
共通の経済的・社会的課題に共同で取り組む。
質の高いインフラによる連結性やサプライチェーン強靱性・産業競争力の強化、
持続可能なエネルギー安全保障・エネルギー移行の促進。

③平和と安定のためのパートナー

自由で開かれたインド太平洋の促進、安全保障協力の強化、
核なき世界に向けた核軍縮・不拡散、法の支配等の促進、WPS等の促進。



●岸田総理から、
「信頼」に基づく
「共創」により
目指す「平和と
繁栄」のための
アクション
を発表（次頁）

「信頼」に基づく「共創」により目指す「平和と繁栄」のためのアクション

(日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議において岸田総理から発表)

- ① 世代を超えた心と心のパートナー： 日ASEAN双方が裨益する交流を通じ、相互理解をより一層醸成し、「心と心の繋がり」を次の世代に繋げる
 - 次世代共創パートナーシップ－文化のWA2.0－
 - 国際共同研究や人材交流・育成等を通じた持続可能な研究者ネットワークの強化
 - 若手ビジネスリーダーのネットワーク作り、ASEAN事務局職員の奨学プログラム等
- ② 未来の経済・社会を共創するパートナー： 互いの強みを持ち寄り、山積する課題への解決策を見出し、日ASEAN双方の活力が相互環流することにより強靱な経済・社会を目指す
 - 共創による課題解決のための官民連携の新たな取組
 - アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）構想
 - 日ASEAN次世代自動車産業共創イニシアティブ
 - 連結性強化、気候変動対策、中小零細企業・スタートアップ支援等のための民間投資の後押し
- ③ 平和と安定のためのパートナー： 日ASEAN双方の人々が共に暮らす地域の平和と繁栄に貢献し、全ての人が繁栄を享受し、「人間の尊厳」が守られる世界を共に創る
 - 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化ための取組
 - サイバーセキュリティ人材育成、ASEAN防災人道支援調整センターを通じた人道支援等

日ASEAN協力の推進(44主要協力分野)

世代を超えた心と心のパートナー			未来の経済・社会を共創するパートナー				平和と安定のためのパートナー		
青年・人的交流 	文化・知的交流 	スポーツ 	経済 	金融 	連結性 	交通 	法の支配 	海洋安全保障 	防衛 
観光 	語学 	教育 	環境・気候変動 	エネルギー・重要鉱物 	防災 	保健・社会福祉 	WPS・YPS・平和構築 	核不拡散 	人権 
外国人労働者 	科学技術 	人材開発 	スマートシティ・都市化 	デジタル 	宇宙 	農業・食料システム 	国境を超える犯罪 	サイバーセキュリティ 	偽情報 
ビジネス交流 	自治体交流 	ASEAN事務局支援 	格差是正 	ジェンダー 	労働 	SDGs 	競争政策・競争法 	出入国管理 	地雷 
大阪・関西万博  ©Expo 2025			公務員制度 	地方開発 			地域枠組み 		

日ASEAN経済共創ビジョンのポイント

～これからの日ASEANの50年を見据えた新たなビジョン～

**50年間の友好協力で培った“信頼”を原動力として、
安全で豊かで自由な経済社会を、
公正で互恵的な経済共創で実現する**

ビジョンを支える3つの基盤

経済成長と社会課題解決の
経験を共有する

地域の実状に向き合い、
多様性を尊重する

互恵的なイノベーションの担い手となる
人材の双方向の交流を進める

～経済共創の4つの柱～

多様性・包摂性を両立するサステナビリティの実現

国境を越えたオープンイノベーションの推進

サイバー・フィジカルコネクティビティの強化

活力ある人的資本を共創するためのエコシステムの構築

東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）の更なる活用

日ASEANの官・民の協力体制を一層強化し、関連するプロジェクトを推進

ASEAN諸国の多様性を最大限活かし、
それぞれの国の強みを反映した成長・イノベーションモデルが双方向につながる、
そうした日ASEANの共創関係をグローバルで目指すべきモデルの一つとして示すとともに、
自由で公正で開かれた地域経済秩序の構築に貢献することを目指す

3. ASEANと日本の将来

企業の活躍の場の広がり（DEFA）

デジタル経済枠組み協定（DEFA）

- デジタル経済に関する、世界初の最も包括的な地域協定を目指す。
- 2023年より調査開始、同年9月より交渉開始。同時に、キャパビルにも注力。
- **2025年10月24日 実質妥結をASEAN経済共同体理事会（AECC）より発表。** 2026年中の署名を目指す。

- ✓ DEFAは、新たな課題に対応するだけでなく、ビジネス界に機会をもたらす。
- ✓ 貿易関連手続き（ASEANシングルウィンドウ）、電子決済、データプライバシー、越境データフロー、ASEAN固有企業識別番号(UBIN)等の進展を後押し。
- ✓ ASEANの既存のデジタル貿易に関するコミットメントに基づいた条項に加え、将来を見据えた条項を導入。
- ✓ 人材の流動性に関する協力、AIなどの新興技術に関する協力、競争政策やオンラインの安全性とサイバーセキュリティ、ソースコードなどの新興分野の規定について広範な合意に達した。
- ✓ DEFAを通じて、ASEANは地域全体で国境を越えたデジタル統合と相互運用性のメ
リットを解き放つことができるだろう。

企業の活躍の場の広がり（APG）

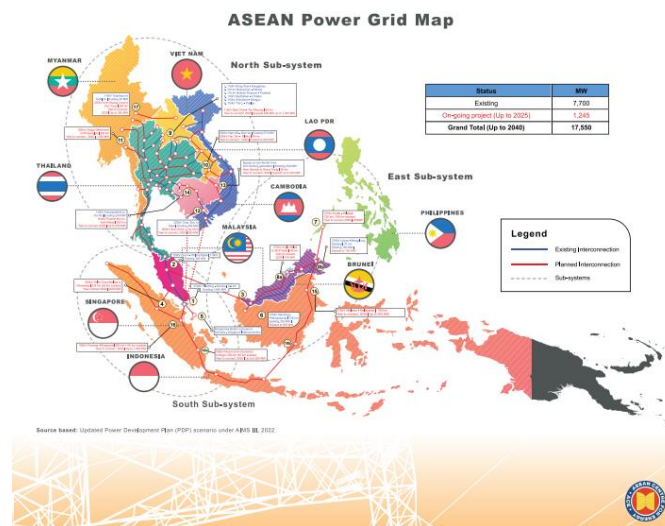
ASEANパワーグリッド（APG）

2025年8月14日、APGの金融メカニズムについて議論するため、ASEANのエネルギー大臣、経済大臣、財務大臣、中央銀行総裁が集まった。

- APGファイナンスイニシアティブ（APGF） 設置提案を歓迎：
APGFは、アジア開発銀行（ADB）、世銀、ASEANエネルギーセンター（ACE）、ASEAN事務局の4者によりリードされることを発表。
- Partnership for ASEAN Connectivity on Energy（PACE） 設置計画を歓迎：
開発パートナー、国際金融機関、商業銀行、ドナーが支援を調整し、資金調達の障壁に対処し、進捗状況を共有するためのフォーラム。

10月15日 APGF発足（4者MOU締結）

「2045年までに地域の電力網を接続し、エネルギー協力を強化するためのASEANの共同の取り組みであるASEANパワーグリッド（APG）を支援するための新たな資金調達イニシアチブを開始。 第42回ASEANエネルギー大臣会合（AMEM）では、APGが地域の国境を越えたコネクタに焦点を当てるだけでなく、国内の送電網のアップグレードや海底電力ケーブルの開発の重要なニーズにも取り組むべきであることに合意した。」



ASEAN Power Grid Interconnections Project Profiles より

● 「AOIPの更なる推進と実施に関する日ASEAN首脳共同声明」概要



1. 背景

2025年10月 外務省地域政策参事官室

- 日本は、FOIP推進の観点から、いち早く「インド太平洋に関するASEANアウトルック（AOIP）」に全面的な支持を表明。2020年の日ASEAN首脳会議でAOIP協力についての首脳共同声明を初めて発出。
- それ以降、印、豪、NZ、米、韓、さらに中国も追随し、AOIPを支持する共同声明を発出。
- 今般、ASEAN側からの示唆も踏まえ、AOIP主流化に新たなモメンタムを与えると共に、**FOIPとAOIPの結びつきを強化すべく、第二の首脳共同声明**を発出する。

2. 意義・目的

- FOIPと本質的原則を共有するAOIPの推進を通じ、**FOIPの更なる推進**を目指す。
- **日ASEAN関係の更なる強化**を図るとともに、対話国の中で対ASEAN協力における**主導的立場を確立**する。

3. 声明概要 （赤字は今回合意した新たな要素。）

・**AOIPとFOIPが**、国際法の遵守や平和、安定、自由、繁栄を推進する上で、**本質的な原則を共有していることを再確認**（※）し、分断や対立ではなく協力を促進するための**FOIPを通じた日本の努力を歓迎**。（※第一の首脳声明では「留意」。）

・AOIPの推進と実施が、**法の支配に基づく国際秩序**並びに**自由で開かれたルールに基づくインド太平洋**の促進にも寄与することを確認。

・インド太平洋地域における補完性と**相乗効果**を促進し、**AOIPとFOIPが共有する本質的な原則に貢献する具体的なAOIPプロジェクトを実施**。

・**地域を越えた地球規模の課題に対処**するにあたり、AOIPに沿って協力を拡大。

信頼で共創する未来

AOIPというプラットフォームを活用して、
協力の成果をインド太平洋から世界に広め、
地域と世界の持続可能な平和と繁栄に貢献

世界にスケールアップ

エネルギー移行・気候変動・環境・
デジタル化・保健・防災などの
地球規模課題・社会課題

50年の
歴史

福田ドクトリン以来の
「心と心のふれ合う相互信頼関係」

50周年を契機に制度化・可視化を推進

多層的な交流と
相互理解の促進
を通じた信頼

日本
ASEAN

イノベーション
による社会課題
解決の共創

社会課題
の解決

多文化共生
社会の実現

日本とASEANが相互に学んで自らを変革し、
安全で豊かで持続可能な多文化共生社会を実現

2026年のASEAN

来年の議長国は、フィリピン。

「As the 2026 Chair of ASEAN, the Philippines looks forward to building on the gains of Malaysia's inclusivity and sustainability theme and carry ASEAN forward as we, as is our theme, **'Navigate our Future, Together.'**」
(マルコス大統領)



[フィリピン政府ウェブサイトより](#)

ご清聴ありがとうございました

